

第53回卒業証書授与式 式辞

立春からひと月あまり。いまだ寒暖の差が大きく一足にとはいきませんが、いつの間にか日もずいぶんと長くなり、春が着実に訪れているのを感じます。

このよき日、PTA会長 様はじめ御来賓の皆様、そして多数の保護者の皆様に御臨席いただき、第53回卒業証書授与式を挙行できますことを誠に嬉しく思います。

53期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、小学校卒業直前から中学校1年生にかけて、緊急事態宣言下の最も厳しい行動制限下に置かれ、中学校生活が充実していくはずの時期をコロナパンデミックの影響の下で過ごしました。

本校に入学したのは、学校を含む社会全体が制限緩和に向かった時期でした。きっと「高校では取り返そう、楽しもう、思い切り何かに打ち込もう」と意気込んでいた人が多かったことでしょう。あれから3年。年々開放感が増し、学校がどんどん元気を取り戻していった時期の坂高生。それが53期生の皆さんです。楽しかったり苦しかったり。泣いたり笑ったり。いろいろあったと思います。挑戦できてよかった。本気を出し切る経験ができてよかった。やってみた結果、うまくいったことも、うまくいかなかったことも、すべてが今の自分を作っている——皆さんにとって、そういう、やりごたえのある高校3年間であってくれたらいいなと私は思います。どうだったでしょうか。

さて、これから予測困難で変化が速い時代を生きていく皆さんに、生きる上でのヒントの一つとして、「変わりながら恒常性を保つ」という話をしたいと思います。科学エッセーの定番テキストとして、おそらく皆さんの多くが読んだであろう、分子生物学者、福岡伸一さんの「動的平衡」の概念をベースにした話です。

生命とは、分子の流れの中でたまたまそこで密度が高まっている淀みである。分子の淀みである私たちの個体は、ミクロのレベルでは絶えず自分の一部を壊して再構築しながら平衡を保っている。秩序あるものは、必ず乱雑さを増大させる方向に進み、やがてその秩序が失われていくという「エントロピー増大の法則」に先回りして、私たちは、自分のシステムが機能を失う前に自らを壊しては作り直し、自転車操業のように動的に恒常性を保っている。これが動的平衡という生命観です。

変化に対応して生きていくというのはこういうことだと思います。社会の表層では、先端テクノロジーや生成AIが象徴するように、次々と強力なゲームチェンジャーが現れ、エントロピー増大の法則に従って既存の秩序は壊されていく。ゲームのルールが変わって

いく。自分も変わらざるを得ない。しかし壊されるのではなく、その前に自ら自分の一部を壊して作り変えていく。アップデートしていく。変わりながら、総体として自分という生命システムの恒常性を保っていく。表層の変化がいかにもめまぐるしくても、深層には、あまり変わらない恒常的な価値観を保っていく。さらに社会のレベルに援用すれば、社会はその構成メンバーを絶えず入れ替えながら、深層にある「自由・平等・博愛」といった普遍的価値観を失うことなく共同体を維持していく。

「変わりながら恒常性を保つ」。生きる上でのヒントになればと思います。

もう一つ。以前にも話したことですが、「競争局面の先に求められるのは協働する力だ」という今一度話をしておきたいと思います。

選別される競争の局面では、常に「私の最適解」を求めようとします。「他者よりも先にゴールに到達することを目指し、私は私の最短距離を進む」ことに徹します。こうして競い合うことで、個々の能力が強化されていきます。しかし、競争自体が目的なわけではありません。社会の中で生きていく上でより大切なのは、人とつながり協働して、「私たちの最適解」を求める力です。自分の能力を差し出すとともに、仲間の協力を求め、利害を調整し、力を合わせて課題を解決していく力です。探究活動や、学校行事、部活動などを通じて、皆さんはこうした「非認知能力」を培ってきました。人とつながり協働する。その中で、皆さんが持つ素晴らしい力を生かしてください。この先所属する組織の中で、地域社会で、家庭で。そうして実り豊かな人生を歩んでほしいと思います。

「われ」一人ではなく、「われら」である。「われらは学ぶ」「われらは歌う」「われらは生きる」。校歌斉唱では在校生とともに、皆さんの声をこの体育館に響かせてください。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。かくも多くの皆様にご臨席いただくことができ、本当によかったと思っています。成年年齢が18歳となり、お子様の高校卒業は、保護者にとって子育て卒業の大きな節目ともいえると思います。これまで、慈しみ育ててこられた様々な場面が思い浮かぶことでしょう。腕に抱いた時に感じた重さ、ぬくもり、匂い。忘れるものではありません。手をつないで歩いたあの日。遠い過去のようにも、つい昨日のようにもある。そんなお気持ちかと拝察します。お子様は、今や堂々たる法律上の大人となりました。自分の生きる道を自分で決める主体です。どうか大人として歩み始めるお子様を、最も身近な味方として、これからもお見守りいただければと思います。

では、53期生、350名の皆さん、改めて皆さんの門出を心から祝福します。胸躍る

季節。新しい出会い、新しい世界が皆さんを待っています。人とつながり、変化にはしなやかに適応しながら、自分を見失うことなく、あなたらしく人生を歩んで行ってください。坂戸高校は皆さんの輝かしい未来を応援しています。

令和8年3月11日

埼玉県立坂戸高等学校長 久住 毅